

令和3年1月4日

年頭所感

一般社団法人全国高圧ガス容器検査協会
会長 白砂 清一
(大静高圧(株)取締役社長)

令和3年の新春を迎え謹んでお慶びを申し上げます。
平素は当協会の活動にご支援とご理解を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年来のコロナ禍で経済は打撃を受け低迷していますが、高圧ガス容器再検査事業は当面大きな変化はなく比較的安定しています。去年の容器再検査対象本数は484万本と前年比約2%落ち込みましたが、今年は499万本と3%程度回復する見込みです。バルク貯槽くず化についても2024年までは右肩上がりの増加を予測し、関係団体の周知もあって円滑に進んでおり関係者の皆様に感謝申し上げます。



新型コロナウイルス感染拡大により昨年の通常総会や理事会は書面審査に変更し、技術委員会と講習会も中止しましたが、最近ではデジタル社会へシフトしていることもあってWEB会議が増えるなど周囲の対応が変化しており当協会もネットワーク環境整備とセキュリティの強化を進めています。その状況のなか、近年一般複合容器に関する保安規制の見直しが進んでおり、FRP容器を昨年10月発売した中国工業(株)呉工場見学は関係者皆様のご協力により実施することができました。LPガス用FRP容器の再検査基準は技術委員会で作成する予定です。青年部会はWLPGA/LPガス容器の検査及び再検査報告書(和訳本)を発行しました。

さて、政府が次期エネルギー基本政策の方向性を示し2050年に向けて脱炭素化・水素社会へと官民が協力して本格的に取り組むことになりました。ガス業界は人工合成ガスやオフガスなど様々な技術開発を進め収率の確保等の課題もクリアしていけば、容器検査所を取り巻く状況は変化していくと思います。当会では技術委員が開催している講習会などを通して情報発信をしていきたいと考えています。

最後になりましたが、コロナ感染が収束することを願ひ今も闘っている医療関係者の方々に敬意を表し感謝申し上げます。

これからも容器再検査技術の知見を高め保安を担う協会として真摯に取り組んでまいります。本年も皆様の益々のご健勝とご発展を心よりご祈念申し上げまして新年のご挨拶とさせていただきます。